

# 教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
国語	現代文	3	3年	高等学校現代文 (三省堂)	「カラー版新国語便覧」第一学習社 「大学入試現代文キーワード500」 桐原書店 「日本文学史必携」第一学習社

到達目標	2年次の現代文の学習内容をふまえ、近代以降の文章の鑑賞力・読解力を更に深めるとともに、独自の思考・感受性を養い、それを適切な言葉で表現することを目標とする。また、入試にも対応する国語力の育成にも意識的に取り組む。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な読みをするために、生徒自身が自らの問題意識を持てるよう導入する。</li> <li>入試も意識し、語彙力を養うために、語句の意味調べ、短文作成、感想・意見を述べる、等の項目を活用して指導する。</li> <li>表現につなげるため、自らの考えをノートにまとめる機会を常に設ける。</li> </ul>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	評論 『聴くということ』 鷲田 清一	1学期は評論教材を扱い、2年次に引き続き、論理的思考力・読解力の完成を目指す。	・ノート・語彙 プリント提出	・意味調べ等の語彙ノート関連の課題をきちんとしているか。
5	評論 『判断停止の快感』 大西 赤人	『聴くということ』では聴く者の態度や生き方を問うていく。	・漢字テスト	・授業をよく聞き、大事な点を自分の視点でノートできているか。
6	評論 『南の貧困/北の貧困』 見田 宗介	『判断停止の快感』では清潔願望に対して「きたない」と判断された側がそれに負けることなく自らを保持すべきだと主張する。	・鑑賞文・意見 文の提出	・文章の内容を正しく理解しているか。
7	評論 『「である」ことと「する」こと』 丸山 真男	『南の貧困/北の貧困』では現代社会の持つ問題点を正確に把握する力を養う。	・定期考査 (文学史テスト を含む)	・漢字力・語彙力が定着しているか。
8	評論 『「である」ことと「する」こと』 丸山 真男	『「である」ことと「する」こと』では政治思想歴史の立場から、現代の社会を考え、自分の考えを主張できるようにする		・主体的な自己の読解を試みているか。
9	詩歌 『小諸なる古城のほとり』 島崎藤村	韻文に触れることで作者独特の繊細な感覚や人間的葛藤に触れる。		・自己の意見を適切な表現・語彙を使って文章化、あるいは発表できているか。
10	『現代の俳句』 三橋鷹女 他	『場所と経験』では真の経験から真の知識を獲得することの重要性を説いている。		
11	評論 『場所と経験』 柄谷 行人	小説教材では、近代の代表的作品を中心に、そこに描かれる人物のあり方を、時代背景とともに深く考えさせる。また、作品の文学史的な位置づけにも関心を持たせる。		
12	小説 『舞姫』 森 鷗外			【副教材の使用について】 ・「日本文学史必携」については、範囲を区切って学習させ、定期考査に出題して、確認する。 ・「現代文キーワード」は1週間に1回のペースで小テストを実施し、漢字力、評論語彙の向上を図る
1	評論 『現代日本の開化』 夏目 漱石	評論文の学習の仕上げとして、文化論を読む。抽象度の高い表現を、具体的な事柄や自分自身の経験に結びつけて理解する力を養い、評論文を読む技術をより高める。		
2				

## 古典（3年）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
国語	古典	3	3年	精選 古典 (大修館書店)	「カラー版新国語便覧」第一学習社 「必携古典文法」中央図書 「完全頻度順 入試対策 ベストセレクション 古文単語 325」

到達目標	古典を通して、国語の能力を育成し、豊かな感性を養う。
到達目標に向けての具体的な取り組み【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年、2年での基礎知識を踏まえて、古典文学をより深く鑑賞できるようにする。</li> <li>・古典作品を通して、歴史および日本文化や中国文化への理解を深める。</li> </ul>

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	十訓抄 「朱雀門の鬼の笛」	既習の基礎知識の復習。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。  ・ノート ・課題提出 ・古語小テスト ・感想文の提出 ・定期考査	・古語辞書、文法書を活用し、語句の意味調べや口語訳などが予習できているか。  ・授業への主体的な取り組みがなされているか。  ・文章の内容を正しく理解しているか。  ・音読、暗唱が流暢になされているか。
5	陶淵明集「桃花源記」 老子「小国寡民」	小テスト等で重要古語を覚え、身につけていく。		
6	枕草子 「うれしきもの」 「頭の弁の、職に参りたまひて」	古典文法をおさえて、自分で文章を読んでいけるようにする。		
7	源氏物語 「葵」 「須磨」	作品の時代背景を知り、筆者のもの見方、感じ方、表現の仕方を理解する。		
8	紫式部日記 「和泉式部と清少納言」			
9	大鏡「三船の才」 「肝だめし」			
10	蜻蛉日記「鷹」 和泉式部日記「薫る香に」			
11	古今和歌集仮名序 「やまと歌」 「六歌仙評」			
12	玉勝間 「師の説になづまざること」			
1	方丈記 「行く河の流れ」			

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
国語	日本文学 精読	3	2	ニューエイジ新訂版 現代文

到達目標	さまざまな文章、特に評論文にふれ、読解を進めながら、筆者の意図を的確にすばやく読みとる力を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成のしっかりした文章を教材として与え、味わわせる。</li> <li>・入試問題等も取り入れ、様々な設問に答えさせる。</li> </ul>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法等	評価のポイント
4	評論「歴史に見る問題 評論「自文化と異文化の 狭間で生きる」	語句、漢字等の国語の 基本の力の養成を徹底 する。	ノート点検によ り、予習復習の チェックをおこ ない、家庭学習 点とする。	1、読解に際して、 正しく読み取りが できているか、設問 に対するアプローチ は的確かどうか を評価する。
5	評論「わかりにくさの大 切さ」	文章を読み解くうえで の主題を理解させる。	適宜漢字テス ト、語句テスト を取り入れ、小 テスト点とす る。	2、積極的に課題に 取り組み、期限を守 って提出している か、態度も評価す る。
6	評論「文明と文化の違い」 評論「読者と作品理解」 小説「阿弥陀堂だより」	読みとった内容を自分 の力で表現する力をつ ける。	百字から四百字 程度の小論文を 適宜提出させ、 評価する。	3、漢字・語句など の基礎知識が定着 したか、内容を正し く理解しているか を評価する。
7	小説「蜜柑」 評論「肩が凝る」のは日本人 だけ	小論文課題を適宜取り 入れ、社会の様々な問 題に対して自分なりの 意見を持ち、的確に表 現できる力を養う。		4、小論文への取り 組みを通して、社会 の様々な出来事へ の興味と関心を持 たせる。
9	評論「時代批評としての 文化論」 評論「現実と仮想」 評論「おかしな朗読文化」			
10	評論「季節と文明」 評論「生物の信号と人間の言 語」			
11	評論「自由の「認識根拠」と しての後悔 随想「八月の檜」			
12	小説「蛍川」 小説「風立ちぬ」 評論「否定表現を有効に使お う」			
1	評論「仮象としての物」			
2	評論「子供とはなにか」			

## 教科・科目別年間指導計画

教科（科目）	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地歴(日本史B)	4	3	山川出版 詳説日本史B	山川出版 詳説日本史図録 浜島書店ゼミナール日本史

到達目標 【学習指導要領】	国際関係の中の日本を中心に据えながら、わが国の文化と伝統についての認識を深め、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
到達目標に向けての 具体的な取組 【指導上の留意点】	基本的には板書、プリントを用いた講義形式。必要に応じて視聴覚教材も活用する。授業プリントに不完全な部分がないか点検し、理解を確認する。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	第1部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳と大和政権	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。  定期考査  提出物(ノート・プリント) 授業の取り組み  この3点を総合的に評価す  同上	各単元の基本的事項が定着しているか授業・考査・を通じて評価する。  考査以外に、授業への参加の姿勢を重視する。特に必要とする年表・図などを挿入し、工夫したプリントを作成するように求める。  授業中は、教科書の他に「副教材」をたびたび参照するが、必ず指示されたところは見るように指導する。  また、復習や定着度を測るため復習プリントを考査直前などで有効に活用する。
5	第2章 律令国家の形成	飛鳥の朝廷 律令国家の成立 平城京の時代		
6	第3章 貴族政治と国風文化	天平文化 平安朝廷の形成		
7	第2部 中世 第4章 中世社会の成立	撰関政治 国風文化 荘園と武士  院政と平氏の台頭 鎌倉幕府の成立		
8	第5章 武家社会の成長	武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化		
9		室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の登場		
10		織豊政権 桃山文化 幕藩体制の成立		
11	第3編 近世 第6章 幕藩体制の確立	幕政の安定 経済の発展 元禄文化・		
12	第7章 幕藩体制の展開			
1	第8章 幕藩体制の動揺	幕政の改革 幕政の衰退 化政文化		

# 世界史B

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
地理 歴史	世界史B	4	3	改訂版 詳説 世界史 (山川出版社)	NEW・STAGE世界史詳覧 (浜島書店) 世界史重要語句 (啓隆社)

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代に至る大きな歴史の流れを認識・理解させる。</li> <li>・個々の事象の原因、結果、歴史の中での意味を考察することにより歴史的思考力を養い、さらに現在を客観視し、今後のあり方を判断していける能力を養う。</li> </ul>
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な歴史事項をしっかりと覚えつつも、その暗記だけにとらわれぬよう、事項間の因果関係や歴史上の意味の説明にも時間をとる。</li> <li>・単なる抽象的知識にとどまらぬよう、プリントごとに地図などの作業も取り入れ、歴史を空間的にも認識させて立体的な学習をめざす。</li> </ul>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	第Ⅰ部 第1章 オリエン と地中海世界	①古代オリエン ②ギリシア世界 ③ローマ世界	「関心・意欲 ・態度」「技 能・表現」 「知識・理解 」 「思考・ 判断」 の各 観点に基づ き、下記の点 により総合 的に評価す る。  プリント提 出 授業中のあ り方 定期考査	・プリントをき ちり書いているか ・説明を聞いて必 要な部分をメモし ているか ・集中して授業を 受けているか
5	第2章 アジア・アメ リカの古代文明	①インドの古典文明 ②東南アジアの諸文明 ③中国の古典文明 ④南北アメリカ文明		
6	第3章 東アジア世 界の形成と発展	①北方民族の活動と中国の分裂 ②東アジア文化圏の形成 ③東アジア諸地域の自立化		
7	第4章 内陸アジア 世界の変遷	①遊牧民とオアシス民の活動 ②トルコ化とイスラーム化の進展 ③モンゴル民族の発展		
8	第5章 イスラーム 世界の形成と発展	①イスラーム帝国の成立 ②イスラーム世界の発展 ③インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ④イスラーム文明の発展		
9	第6章 ヨーロッパ 世界の形成と発展	①西ヨーロッパ世界の成立 ②東ヨーロッパ世界の成立 ③西ヨーロッパ中世世界の変容 ④西ヨーロッパの中世文化		
10	第Ⅱ部 第8章 アジア諸地 域の繁栄	①東アジア・東南アジア世界の動向 ②清代の中国と隣接諸地域 ③トルコ・イラン世界の展開 ④ムガル帝国の興隆と衰退		
11	第9章 近代ヨーロ ッパの成立	①ヨーロッパ世界の拡大 ②ルネサンス ③宗教改革 ④主権国家体制の形成		
11	第10章 ヨーロッパ 主権国家体制の展開	①重商主義と啓蒙専制主義 ②ヨーロッパ諸国の海外進出 ③17～18世紀のヨーロッパ文化		
12	第11章 欧米にお ける近代社会の成長	①産業革命 ②アメリカ独立革命 ③フランス革命とナポレオン		
1	第12章 欧米にお ける近代国民国家の発 展	①ウィーン体制 ②ヨーロッパの再編 ③アメリカ合衆国の発展 ④19世紀欧米の文化		

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
公民	現代社会	2	3	現代社会 (東京書籍)	最新現代社会資料集 (第一学習社)

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会のさまざまな問題点を認識・理解し、自己との関わりを通じて問題の解決方法 などについて考えさせる。</li> <li>・日本の政治・経済のシステムについて、社会人として必要最低限の知識を獲得させる。</li> <li>・自らの生き方について考えるきっかけをつかむ。</li> </ul>
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞を活用した授業を展開する。新聞・テレビから得た時事的な話題を出すように努め、また生徒自身にも普段から新聞に目を通すよう指導する。</li> <li>・時々の課題について、レポートを課すし、文章力やプレゼンの力を養う。</li> </ul>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	第2部 現代の社会と人間 第2章 現代の経済と国民福祉 1 経済のしくみ 2 政府の経済的役割	①技術革新と産業社会の変化 ②企業の働き ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長  ①市場と政府 ②財政と財政制度 ③金融の役割	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、プリントを確実に書いているか。</li> <li>・提出物等確実に仕上げられているか。</li> <li>・授業に取り組む姿勢。</li> </ul>
5	3 変化する日本経済	①高度経済成長 ②安定成長と産業構造の転換 ③経済のバブル化とその後 ④中小企業と農業 ⑤転機に発つ日本経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノート、プリント提出</li> <li>・授業中の取り組み方</li> <li>・定期考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問に対する回答など、積極的に授業に参加しているか</li> </ul>
6	4 豊かな生活の実現	①自立した消費者への道 ②公害の防止と環境保全 ③労働者の権利 ④現代の雇用・労働問題 ⑤社会保障の役割		
7	第3章 日本国憲法と民主政治 1 民主政治とは 2 日本国憲法と基本的人権	①民主政治の原理 ②民主政治のしくみ ③世界のさまざまな政治体制 ①日本国憲法と三つの原理 ②基本的人権の保障(1) ③基本的人権の保障(2)		
8	3 国会・内閣・裁判所	④新しい人権と人権の国際的広がり ①国会と立法 ②内閣と行政 ③裁判所と法の支配		
9	4 政治参加と民主政治	①選挙と政党政治 ②世論と政治参加 ③地方自治と地域社会 ④平和主義と安全保障 ⑤民主社会の倫理と課題		
10	第4章 国際社会と人類の課題 1 国境をこえる経済	①企業活動のグローバル化 ②国際経済のしくみ ③戦後国際経済の枠組みとその変化 ④対立と協調の時代 ⑤グローバル化する国際経済		

11	<p>2 ボーダーレス化のなかの地域</p> <p>3 国際社会の成立と戦後の動き</p> <p>4 国際社会の課題</p>	<p>①地域経済統合の進展</p> <p>②変容するロシアとアジアの経済</p> <p>③多様化する南の世界</p> <p>①国際社会の成り立ち</p> <p>②国際紛争を避けるしくみ</p> <p>③国際連合の現状と課題</p> <p>④東西対立とその後の世界</p> <p>①核兵器と軍縮</p> <p>②環境・人口・食料問題</p> <p>③民族問題と紛争</p> <p>④国際社会と人権</p> <p>⑤地球人として一日本の役割一</p>		
12	<p>第1章 現代の社会生活と青年</p> <p>1 現代社会の特質とわたしたちの生活</p>	<p>②情報化の進展と生活</p> <p>④少子・高齢化社会を求めて</p>		
1	<p>2 現代社会と青年の生き方</p> <p>3 よりよく生きることを求めて</p>	<p>①青年であること</p> <p>②社会とのつながり</p> <p>③生きがいと進路の創造</p> <p>①よく生きるということ</p> <p>②近代科学の考え方</p> <p>③人間の尊厳</p> <p>④日本人のものの考え方</p> <p>⑤外来文化の受容と日本の伝統思想</p>		

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	単位数	指導学年	教材名等
地歴	日本史演習	2	3 学年	山川出版 改訂版 詳説日本史 B 山川出版 詳説日本史図録 浜島書店 2012年改訂版ゼミナール日本史

到達目標 【学習指導要領】	国際関係の中の日本を中心に据えながら、わが国の文化と伝統についての認識を深め、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	基本的には板書、プリントを用いた講義形式。必要に応じて視聴覚教材も活用する。授業プリントに不完全な部分がないか点検し、理解を確認する。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	近世 第7章 幕藩体制の展開と近世文化の成立	ヨーロッパ人の来航 織豊政権 桃山文化 幕藩体制成立 鎖国 近世の生活と文化	定期考査 演習問題 提出物(プリント)	各単元の基本的事項が定着しているか授業・考査・演習問題を通じて評価する。 考査以外に、授業への参加の姿勢を重視する。 特にプリントへの書き込み(担当教員が授業中に言った重要なこと)を重視する。 授業中は、教科書の他に「図説」や「史料集」をたびたび参照するが、必ず指示されたところは見るように指導する。
5			授業の取り組み	
6	第8章 幕藩体制の動揺と文化の成熟	幕府政治の展開 経済の発展 学芸の発展と元禄文化 幕藩体制の動揺と幕政の改革 欧米列強の接近と天保の改革 江戸中・後期の文化	この4点を総合的に評価す	
7				
8	近・現代 第9章 近代への転換	開国 明治維新 四民平等と富国強兵 初期の外交と国内政治 文明開化		
9				
10	第10章 近代国家の形成	民権運動の展開 立憲政治への道 条約改正 初期議会と日清戦争 政党の進出と日露戦争 産業革命と社会の変化 近代文化の形成と展開		
11	問題演習	教科書の最初より、問題集や入試問題などを利用して問題演習を行う		予習を十分になされているかどうか。 問題に対して、自らの力で解こうとしているか。 問題に対する解説について、真剣に自分のものにしてようとしている。
12				
1				

学校整理番号

2 1 4

枚のうちの

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	単位数	指導学年	教材名等
地理 歴史	世界史演習	2	3	山川出版社 詳説 世界史B 浜島書店 世界史 詳覧 センター世界史 (啓隆社)

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代に至る大きな歴史の潮流を認識・理解させる。</li> <li>・個々の事象の原因、結果、歴史の中での意味を考察することにより歴史的思考力を養い、さらに現在を客観視し、今後のあり方を判断していける能力を養う。</li> </ul>
到達目標に向けての具体的な取組  【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な歴史事項をしっかりと覚えつつも、その暗記だけにとらわれぬよう、事項間の因果関係や歴史上の意味の説明にも時間をとる。</li> <li>・単なる抽象的知識にとどまらぬよう、プリントごとに地図作業も取り入れ、歴史を空間的にも認識させて立体的な学習をめざす。</li> </ul>

月	単元・教材名	指導内容 (項目/活動)	評価方法	評価のポイント
4	第15章 二つの世界大 戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌とファシズム諸国の侵略</li> <li>・第二次世界大戦</li> </ul>	プリント提出 授業中のありか た	プリントを正しく書けているか 説明を聞いて必要な部分をメモしているか
5	第16章 冷戦 と第三世界 の自立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東西世界の始まりとアジア諸地域の自立</li> </ul>	出席状況 定期考査	集中して授業を受けているか
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦構造と日本・ヨーロッパの復興</li> <li>・第三世界の自立と危機</li> <li>・米ソ両大国の動揺と国際経済の危機</li> </ul>		
7	第17章			
8	現代の世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦の解消と世界の多極化</li> <li>・社会主義世界の解体と変容</li> </ul>		
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三世界の多元化と地域紛争</li> </ul>		
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代文明</li> </ul>		
11 12 1	問題演習	教科書の最初より、問題演習を行う	授業中のありか  予習をしているか 出席状況 定期考査	予習を十分におこなっているか 当てた時に正しく答えられるか 集中して授業を受けているか

# 数学Ⅲ

教科（科目）	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
数学（数学Ⅲ）	4	3 学年	数学Ⅲ改訂版（啓林館）	アドバンス 数学Ⅲ＋C （啓林館）

到達目標 【学習指導要領】	極限、微分法および積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。
到達目標に向けての具体的な取組み 【指導上の留意点】	教科書の問等は生徒が次の時間に黒板に解くという形をとるなど、一方通行の授業にならないように復習の機会を作りながら進めていく。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント	
4	関数	分数関数と無理関数 逆関数と合成関数	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 ・観察（取組状況） ・出席状況 ・ノート点検 ・課題レポート	・机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子を見る。 ・積極的に問題を解こうとしているか。 ・単元の内容を理解できているか。 ・問題集にどの程度取り組んでいるかをみる。 ・中間考査、期末考査を通して、各単元の内容がどの程度理解できているかをみる。	
5	数列の極限	無限数列 無限級数			
	関数の極限	関数の極限			
6	微分法	連続関数 導関数と微分法 いろいろな関数の微分法			
7					
8	微分法の応用	導関数の応用			・小テスト
9					・問題集のノート等の提出物
10		第2次導関数の応用	・定期考査	・机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子を見る。 ・積極的に問題を解こうとしているか。 ・単元の内容を理解できているか。	
11	積分法	不定積分 定積分		・問題集にどの程度取り組んでいるかをみる。 ・中間考査、期末考査を通して、各単元の内容がどの程度理解できているかをみる。	
12	積分法の応用	面積		・中間考査、期末考査を通して、各単元の内容がどの程度理解できているかをみる。	
1	積分法の応用	体積		・机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子を見る。 ・単元の内容を理解できているか。	

## 指導と評価の年間計画

教科 (科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材
数学C (文型)	2単位	3学年 (文型)	数学C 改訂版 (啓林館)	教科書傍用TRIAL数学C (数研出版)

到達目標	<p>行列の演算に習熟し、それが1次変換の性質を反映していることを理解する。また、図形の対称性や連立1次方程式系を1次変換の観点からとらえ直す。</p> <p>2次曲線を素材に、多項式(方程式)と図形の対応関係を理解する。</p> <p>確率的現象、統計的現象における分散・標準偏差の概念を理解する。</p> <p>正規分布、二項分布の極限としての正規分布について、多くの適用例を通じて、理解する。</p>
到達目標に向けての具体的な取組(指導上の留意点)	<p>様々な具体例を示しながら、基本概念が把握できるように丁寧な説明を行う。</p> <p>他分野との関連に留意しながら、いろいろな題材を用いて、学習者の関心を高めるようにする。</p>

月	単元	指導内容	評価方法	評価のポイント	
4	第1章 行列とその応用	<p>行列とその成分 行列の加法・減法・実数倍 行列の乗法 行列の乗法の性質 逆行列</p> <p>連立1次方程式と行列 点の移動と1次変換 原点のまわりの回転</p> <p>放物線・楕円・双曲線</p>	<p>「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」 「思考・判断」の各観点に基づき、定期考査の成績の他、授業や課題への取り組みの状況も重視し、総合的な評価を行う。</p>	<p>評価のための評価に陥らず、学習者の意欲を引き出すような評価を行うようにする。</p> <p>考査は、学習者の取り組み経過と達成度が多面的にはかれるように、出題の工夫をする。</p> <p>日常の取り組み状況については、一律の機械的な尺度ではなく、学習者個々の状況に即した、きめ細かな評価につとめる。</p>	
5	第1節 行列				
6	第2節 行列の応用				
7	第2章 式と曲線				
7	第1節 2次曲線				
8・9	第3章 確率分布				<p>条件つき確率 事象の独立と従属</p> <p>確率変数と確率分布、 確率変数の平均と分散、 確率変数の和と積</p> <p>二項分布 正規分布</p>
10	第1節 条件つき確率と乗法定理				
11	第2節 確率分布				
12	第4章 統計処理 第1節 正規分布				
1	第1節 正規分布 (つづき)	正規分布 (つづき)			
2					
3					

## 指導と評価の年間計画

教科 (科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材
数学C (理型)	2単位	3学年 (理型)	数学C (啓林館)	四訂版アドバンス数学Ⅲ+C (啓林館)

到達目標	<p>行列の演算に習熟し、その性質が1次変換に由来することを理解する。また、図形の対称性や連立1次方程式系を1次変換の観点からとらえ直す。</p> <p>2次曲線を素材に、多項式(方程式)と図形の対応関係を理解する。</p> <p>曲線の媒介変数表示の意味を明らかにし、応用を図る。</p> <p>確率的現象、統計的現象における分散・標準偏差の概念を理解する。</p> <p>正規分布、二項分布の極限としての正規分布について、具体例を通じて、理解する。</p>
到達目標に向けての具体的な取組(指導上の留意点)	<p>様々な具体例を示しながら、基本概念が把握できるように丁寧な説明を行う。</p> <p>他分野との関連に留意しながら、いろいろな題材を用いて、学習者の関心を高めるようにする。</p>

月	単元	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7	第1章 行列とその応用 第1節 行列 第2節 行列の応用	<p>行列とその成分</p> <p>行列の加法・減法・実数倍 行列の乗法 行列の乗法の性質</p> <p>逆行列</p> <p>連立1次方程式と行列</p> <p>点の移動と1次変換</p> <p>原点のまわりの回転</p>	<p>「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 「思考・判断」 の各観点に基づき、定期考査の成績の他、授業や課題への取り組みの状況も重視し、総合的な評価を行う。</p>	<p>評価のための評価に陥らず、学習者の意欲を引き出すような評価を行うようにする。</p> <p>考査は、学習者の取り組み経過と達成度が多面的にはかれるように、出題の工夫をする。</p> <p>日常の取り組み状況については、一律の機械的な尺度ではなく、学習者個々の状況に即した、きめ細かな評価につとめる。</p>
8・9 10 11 12	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標 第3章 確率分布 第1節 条件つき確率と乗法定理 第2節 確率分布	<p>放物線・楕円・双曲線</p> <p>2次曲線と直線 2次曲線と平行移動 2次曲線と離心率</p> <p>媒介変数表示 極座標と極方程式</p> <p>条件つき確率 事象の独立と従属 確率変数と確率分布、 確率変数の平均と分散、 確率変数の和と積 二項分布</p>		
1 2 3	第4章 正規分布 第1節 正規分布	<p>正規分布</p>		

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
数 学	数学標準問題演習	3	2	ウイナー1 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B (文英堂)

到達目標	1・2年次に学習した数学Ⅰ・数学Aおよび数学Ⅱの内容を掘り下げ、相互に関連づけ、それらを使いこなせるようにする。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	数学Ⅰ・A・Ⅱの基本事項を授業に先立って予習課題として与え、1・2年時の学習内容を確実にさせる。その上において、授業ではそれらを発展させた内容を、項目を設定して、詳しく取り扱う。類似あるいは関連する内容を問題演習の形で演習課題として課し、内容の定着を図る。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7	式の扱い 方程式と不等式 (数Ⅰ、数Ⅱ)  2次関数 (数Ⅰ)  図形と計量 (数Ⅱ)	多項式、分数式等の計算方法 2次方程式・不等式 方程式の理論(判別式、解と係数の関係) 高次方程式 等式・不等式の証明  関数とグラフ 最大・最小 方程式・不等式への応用  直線、円等の方程式の扱い 軌跡 領域	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、定期 考査の成績の他、授業 や課題への取り組みの 状況も重視し、総合的 な評価を行う。	評価のための評価に陥らず、学習 者の意欲を引き出すような評価を 行うようにする。  考査は、学習者の取り組み経過と 達成度が多面的にはかれるように、 出題の工夫をする。  日常の取り組み状況については、 一律の機械的な尺度ではなく、学 習者個々の状況に即した、きめ細 かな評価につとめる。
8 9 10 11 12	三角比・三角関数 (数Ⅰ、数Ⅱ)  個数の処理、確率 (数A)  命題と論証 (数A)  平面図形 (数A)  指数関数・対数関数 (数Ⅱ)	三角比・三角関数 正弦定理・余弦定理 加法定理とそれから導かれる諸公式  集合 場合の数 確率  命題の扱い  三角形、円等平面図形に関する古典幾何 学的扱い  指数関数 対数関数		
1 2 3	微分・積分 (数学Ⅱ)	微分法と応用 積分法と応用		

# 指導と評価の年間計画

教科	科目	開設学年	単位数	教材
数 学	数学発展問題演習	3年(理型)	2単位	四訂版 シニア数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B 受験編(数研出版)

到達目標	1・2年次に学習した数学Ⅰ・数学Aおよび数学Ⅱ・数学Bの内容を掘り下げ、相互に関連づけ、それらを「使いこなせる」ようにする。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの基本事項を授業に先立って予習課題として与え、1・2年時の学習内容を確実にさせる。使用教材に沿って、1年間の学習計画を生徒各自が立てるようにし、授業では項目を絞って重点を詳しく取り扱う。類似あるいは関連する内容を問題演習の形で演習課題として課し、内容の定着を図る。

月	単元	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7	数と式 方程式と不等式 2次関数  図形と計量(三角比) 集合と場合の数 確率 論証 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式の計算</li> <li>・式の値</li> <li>・1次不等式・2次方程式</li> <li>・関数とグラフ</li> <li>・関数の最大・最小</li> <li>・2次不等式</li> <li>・2次関数のグラフとx軸の共有点</li> <li>・三角比の基本</li> <li>・三角比と図形</li> <li>・場合の数, 順列</li> <li>・組合せ, 二項定理</li> <li>・確率</li> <li>・期待値</li> <li>・命題と集合</li> <li>・三角形の性質</li> <li>・円の性質</li> </ul>	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、定期考査の成績の他、授業や課題への取り組みの状況も重視し、総合的な評価を行う。	<p>評価のための評価に陥らず、学習者の意欲を引き出すような評価を行うようにする。</p> <p>考査は、学習者の取り組み経過と達成度が多面的にはかれるように、出題の工夫をする。</p> <p>日常の取り組み状況については、一律の機械的な尺度ではなく、学習者個々の状況に即した、きめ細かな評価につとめる。</p>
8 9 10 11 12	方程式・式と証明  図形と方程式  三角関数 指数関数・対数関数 微分と積分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多項式の除法, 分数式の計算</li> <li>・恒等式, 等式の証明</li> <li>・不等式の証明</li> <li>・複素数とその計算</li> <li>・2次方程式の理論</li> <li>・剰余の定理・因数定理</li> <li>・種々の方程式の解法</li> <li>・点・直線・円</li> <li>・曲線と直線</li> <li>・軌跡</li> <li>・領域</li> <li>・図形と式の種々の問題</li> <li>・三角関数</li> <li>・指数関数・対数関数</li> <li>・導関数と接線</li> <li>・関数の増減・極値</li> <li>・最大・最小(微分法)</li> <li>・方程式・不等式への応用</li> <li>・積分の計算</li> <li>・定積分で表された関数</li> <li>・面積</li> </ul>		
1 2	ベクトル  数列	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベクトル</li> <li>・ベクトルと平面図形</li> <li>・ベクトルと空間図形</li> <li>・等差・等比数列</li> <li>・種々の数列</li> <li>・漸化式と数列</li> <li>・数学的帰納法</li> </ul>		

# 物理Ⅱ

教科(科目)	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科(物理Ⅱ)	3	3	物理Ⅱ(数研出版)	セミナー物理Ⅰ＋Ⅱ

到達目標	自然現象や物質の性質を解説・実験・観察を行い、原理・法則を理解させ科学的に考察する能力を育てる
到達目標に向けての具体的な取組	身の回りにおける物理的事象を実験や観察で考察・検証・推論できる能力を育成する
【指導上の留意点】	間違い・失敗を恐れない姿勢を育む

月	進度(単元・章・項)	指導内容(項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	力と運動 物体の運動	平面内の運動 放物運動 運動量の保存 反発係数	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、 ・実験中の態度及び実験レポートの内容 ・授業中のノート提出 ・自由実験では、実験に対しての班での論議、及び実験内容とそのレポート ・定期考査 により総合的に評価する	観察しようとする態度・意欲が評価できるか。 実験における意欲・技術があるか。 レポートの完成度が高いか。 協調性・協力性・指導性があるか。 基礎的内容の理解ができていないか。 新しい事象にたいする推論ができるか。
5	円運動と単振動	円運動 慣性力と遠心力 単振動 万有引力		
6	電気と磁気 電界と電位	電界 電位 コンデンサー		
7	電流 電流と磁界	電流 直流回路 磁気力と磁界 電流がつくる磁界 電流が磁界から受ける力		
8		ローレンツ力		
9	電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 磁界中を運動する導体の棒 自己誘導と相互誘導 交流 電気振動と電磁波		
10	物質と原子 原子・分子の運動	物質の三態 気体の状態方程式 気体分子の熱運動 熱力学第一法則 状態変化と熱・仕事		
11	原子と電子	電子の電荷と質量 原子の中の電子 物質中の電子のエネルギー 固体中での電子の振る舞い		
12	原子と原子核 原子の構造	光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子モデル		
1	原子核と素粒子	放射線と原子核 原子核とエネルギー 素粒子と宇宙		
2				
3				

## 化学Ⅱ

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	化学Ⅱ	3	3	高等学校化学Ⅱ（啓林館）	センサー化学Ⅰ+Ⅱ（啓林館）

到達目標	<p>化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成させる。</p>
到達目標に向けての具体的な取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 化学Ⅰとの関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図り、化学的に探究する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力、表現力を育成させる。</li> <li>・ 探究活動においては、各項目の学習活動と関連させながら、観察、実験を行い、観察、実験を通して、化学的に探究する方法を習得させる。</li> </ul>

月	指導項目	指導内容	評価の方法	評価のポイント
4 5 6 7	◇有機化合物（化学Ⅰ）  ◇物質の構造  ・化学結合 ・状態変化 ・気体の性質 ・溶液の性質	・基本的な有機化合物  ・イオン結合 ・共有結合 ・金属結合 ・状態変化とエネルギー ・気体の状態方程式 ・溶解度 ・希薄溶液の性質 ・コロイド	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 「応用・判断」の 各観点に基づき、 下記の点により総合的に評価する。  ◇評価の方法 ・定期考査 ・実験のレポート	・授業への取り組み方 ・授業内容の理解 ・実験への意欲  等について評価する
9 10 11 12	（◇金属元素） ◇化学反応のしくみ ・反応の速さ ・反応の進み方  ◇化学平衡  ◇高分子化合物 ・天然高分子化合物	・速い反応と遅い反応、反応の速さの表し方 ・化学反応の速さと濃度、温度、触媒 ・触媒と活性化エネルギー  ・化学平衡と平衡定数 ・平衡の移動と濃度、温度、圧力 ・水溶液の電離平衡と緩衝溶液	・提出されたノートの内容 ・授業プリントの提出状況  等に基づく。	
1	◇生活と物質 ・食品と衣料 ・材料の化学  ◇課題研究	・合成繊維、樹脂、ゴム ・金属、ファインセラミックス		

# 生物 I

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	生物 I	3 単位	3 学年	高等学校 改訂生物 I (第一学習社)	サイエンスビュー 生物図録 セミナー生物 I (第一学習社)

到達目標	生物分野の基本的な事柄を学び、生命現象を理解させる。実験を通して、自然現象の観察の仕方、科学的な見方、まとめ方等を理解させる。
到達目標に向けての具体的な取組	新聞やニュース等、生物分野の話題もできるだけ取り上げ、生物を身近な学問であることを実感させて、人生の中で生物的な観点で生活できる人間になることを目標とする。
【指導上の留意点】	ただ専門用語を覚えるだけでなく、実物を見ることによって生物の違いに気づくように指導し、科学的な考え方を身に付けさせる。自然現象に興味を持つように進める。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4 5 6 7 8	第1編 生命の連続性 第1章 細胞 1. 生命の単位 2. 細胞の機能と構造 3. 細胞への物質透過 4. 細胞の増殖と分化 第2章 生殖と発生 1. 生殖 2. 有性生殖の過程 3. 発生とそのしくみ	生物を構成する最小単位である細胞について学び、それらの構成要因である細胞小器官の構造、働きを理解させる。 細胞と外液との浸透圧の差によって生じる現象を、動物・植物について理解させる。 細胞の増え方の仕組みを理解させる。 ウニとカエルの初期発生を学ぶことによって、生物の受精から個体形成までを理解させる。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。  実験レポートを点検 中間考査で評価する。  期末考査で評価する  実験レポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。	実験レポートの評価 レポート形式になっているか。 実験の意味を理解しているか。 正しい結果を得ているか。 考察に対し、相手に伝わる解答をする努力があるか。(表現力)  定期考査 (中間・期末) 基本的事項が身についているか。 応用問題が解けているか  自分なりのノートを作っているか 出席状況 授業への取り組み
9 10 11 12	第3章 遺伝 1. 遺伝の法則 2. 遺伝子と染色体 3. 遺伝子の本体 第2編 環境と生物の反応 第4章 環境と動物の反応 1. 刺激の受容と動物の反応 2. 神経系	子が親に似ることを科学的手法で説明し、いろいろな遺伝現象を学ばせて、その仕組みを理解させる。  生物は様々な環境下で生活しており、環境が変化すれば、生物の対応も変わる。環境と動植物の関わりについて学ぶ。  動物は神経系が発達し環境への関わりは神経系を通じて行われるので、神経を中心とする刺激に対する受容や反応の仕方を学ぶ。	実験レポートを点検  中間考査で評価する  実験レポートを点検 期末考査で評価する  実験レポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。	実験レポートの評価 レポート形式になっているか。 実験の意味を理解しているか。 正しい結果を得ているか。 考察に対し、相手に伝わる解答をする努力をしているか。(表現力)  定期考査 (中間・期末) 基本的事項が身についているか。 応用問題が解けているか  自分なりのノートを作っているか 出席状況 授業への取り組み
1 2 3	3. 動物の行動 4. 体液と恒常性 第5章 環境と植物の反応 1. 動物の生活と環境 2. 植物の反応と調節	動物はどのようなしくみで体外体内の環境の変化に対応しているのかを学ぶ。  植物は周囲の環境の影響を強く受ける。どんなしくみで環境の変化に対応するのかを学ぶ。	実験レポートを点検 学年末考査で評価する  実験レポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。	実験レポートの評価 レポート形式になっているか 実験の意味を理解しているか 正しい結果を得ているか 考察に対し、相手に伝わる解答をする努力があるか。(表現力)  定期考査 (学年末) 基本的事項が身についているか。 応用問題が解けているか  自分なりのノートを作っているか 出席状況 授業への取り組み

# 生物Ⅱ

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	生物Ⅱ	3単位	3学年	高等学校 改訂生物Ⅱ（第一学習社）	サイエンスビュー生物総合資料、セミナー生物Ⅱ

到達目標	生物Ⅰで学んだ事柄を、さらに深化し拡大を図り、身近なことから生物現象に関する課題を発見して、科学的な思考、判断力、および、表現力を養うことである。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	そのためには、できるだけ実物を見せることによって、生物を身近な学問であることを実感させて、人生の中で生物的な観点で生活できる人間になることを目標とする。 ただ専門用語を覚えるだけでなく、生物の違いに気づくように指導し、科学的な考え方を身に付けさせる、自然現象に興味を持つように進める。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4 5 6	第1編 生物現象と物質 第1章 遺伝情報とその発現 1. 遺伝子の本体 2. 遺伝情報とタンパク質の合成 3. 形質発現のしくみ 4. バイテクノロジー	生物は遺伝子によって親から子へ形質を受け継いでいる。遺伝子の本体であるDNAは、その遺伝情報に基づいてタンパク質合成を支配し、それぞれの生物に特有な形質を発現していることを理解させる。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実験レポートを点検	実験レポートの評価 形式の指示を守っているか 実験の意味を理解しているか 正しい結果を得ているか 考察に対して、正確な解答をしているか 意欲的に研究に取り組んでいるか
7 8	第2章 生物現象とタンパク質 1. 化学反応と酵素 2. 同化 3. 異化 4. タンパク質の機能		中間考査で評価する 授業ノートの提出 ノートを評価する 実験レポートを点検 期末考査で評価する  授業ノートの提出 ノートを評価する	定期考査（中間・期末） 基本的な事項が身についたか 応用問題が解けているか  きちっとノートを作っているか 自分なりの工夫があるか
9 10 11 12	第2編 生物の進化と分類 第3章 生物の進化 1. 生命の誕生と生物界の変遷 2. 進化のしくみ 第4章 生物の系統と分類 1. 生物の系統 2. 生物の分類	長い歴史のなかでいろいろな生物が進化し、今日の生物界の多様性につながっている。生物界は生命の誕生以来どのように移り変わったのか、また、どのような仕組みで進化してきたかを理解させる。	実験レポートを点検 中間考査で評価する 授業ノートの提出 ノートを評価する 実験レポートを点検 期末考査で評価する  授業ノートの提出 ノートを評価する	実験レポートの評価 形式の指示を守っているか 実験の意味を理解しているか 正しい結果を得ているか 考察に対し、正確な解答をしているか 意欲的に研究に取り組んでいるか  定期考査（中間・期末） 基本的な事項が身についたか 応用問題が解けているか  きちっとノートを作っているか 自分なりの工夫があるか
1 2	第3編 生物の集団 第5章 個体群と生物群集 1. 個体群の構造と維持 2. 生物群集とその変動  第6章 生態系とその保全 3. 生態系 4. 生態系の保全	自然界の生物は、集団を作り、周囲の環境とかわりをもつて生活をしている。また、生物集団では生物どうしの働きあいや環境の影響によって絶えず変動している。このような生物と環境との係わり合いを理解させる。	実験レポートを点検 学年末考査で評価する 授業ノートの提出 ノートを評価する	実験レポートの評価 形式の指示を守っているか 実験の意味を理解しているか 正しい結果を得ているか 考察に対して、正確な解答をしているか 意欲的に研究に取り組んでいるか  定期考査（学年末） 基本的な事項が身についたか。 応用問題が解けているか  きちっとノートを作っているか 自分なりの工夫があるか

# 地学 I (3年)

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	地学 I	3	3	高等学校 地学 I 改訂版 (啓林館)	新訂地学図表 (浜島出版)

到達目標	地球の歴史的発展法則の理解に努めるとともに、生徒自らが自然を観察し、自然から学ぶ態度を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組	可能な限り実験・実習を行い、そこで得た実験結果・観察結果や新たに生じた疑問を日々の授業の中で生かしていく。
【指導上の留意点】	実験・実習の実施に際しては、事前事後の指導を十分に行い、実験・実習の意味やそこから得られる結論を理解させる。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント		
4	固体地球とその変動	地球の概観 地球の内部	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、定期考査と授業時の意欲・積極性、実験・実習時の態度・意欲およびレポートをもとに評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容が理解できているか</li> <li>・実験・実習の意義が理解できているか</li> <li>・実験・実習に意欲的に取り組んでいるか</li> <li>・実験・実習の結果をうまくまとめられるか</li> </ul>		
5	地球の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の大きさを実感するための実習</li> <li>・走時曲線を作成して、地球の内部構造がいかに解明されたかを理解させる。</li> </ul>				
6		地球の活動				
7		地層の形成と地殻変動				
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地質図の読み方、描き方を、実習を通じて理解させ、地球の歴史がどのように組み立てられてきたか学習する。</li> </ul>				
9						
9	宇宙の構成	地球と惑星の運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケプラーが惑星の公転軌道をどのように解明したかを実習によって理解させる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容が理解できているか</li> <li>・実験・実習の意義が理解できているか</li> <li>・実験・実習に意欲的に取り組んでいるか</li> <li>・実験・実習の結果をうまくまとめられるか</li> </ul>
10	太陽の構造と活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通じて、黒点の相対数と太陽活動の関係を理解させる。</li> </ul>					
11	恒星の性質と進化 <ul style="list-style-type: none"> <li>・HR図を作成することで、様々な恒星の性質を理解させる。</li> </ul>					
11	銀河系と宇宙 <ul style="list-style-type: none"> <li>・銀河系の構造と膨張宇宙を理解させる</li> </ul>					
12	大気・海洋と気象 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習を通して、大気・海洋の複雑な構造を理解させる。</li> </ul>					
12		地球の熱収支と大気・海水の動き 大気と海水の運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の熱収支を紹介し、それが大気・海水の大循環の原因であることを理解させる。</li> </ul>				
1	大気・海洋と気象	大気・海洋の相互作用と地球環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>・エルニーニョ現象などを例に挙げ、大気・海洋の相互作用と地球環境について理解させる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容が理解できているか</li> <li>・実験・実習の意義が理解できているか</li> <li>・実験・実習の結果をうまくまとめられるか</li> </ul>		

## 地学Ⅱ

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
理科	地学Ⅱ	3	3	高等学校地学Ⅱ（啓林館）	なし

到達目標	地球の歴史的発展法則の理解に努めるとともに、生徒自らが自然を観察し、自然から学ぶ態度を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組	可能な限り実験・実習を行い、そこで得た実験結果・観察結果や新たに生じた疑問を日々の授業の中で生かしていく。
【指導上の留意点】	実験・実習の実施に際しては、事前事後の指導を十分に行い、実験・実習の意味やそこから得られる結論を理解させる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント	
4 5 6 7 8	宇宙の探求  地球環境の構成	宇宙の観測 恒星 宇宙の広がり  宇宙の観測方法を紹介し、恒星の物性や宇宙の広がりを理解させる。  地球環境の概観 大気・海洋の構造 実習を通して、大気・海洋の複雑な構造を理解させる。	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、定期考査と授業時の意欲・積極性、実験・実習時の態度・意欲およびレポート等により評価する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容が理解できているか</li> <li>・実験・実習の意義が理解できているか</li> <li>・実験・実習に意欲的に取り組んでいるか</li> <li>・実験・実習の結果をうまくまとめられるか</li> </ul>	
9 10 11 12	地球環境の構成  プレートでおおわれた地球	地球の熱収支と大気・海水の動き 大気と海水の運動 地球の熱収支を紹介し、それが大気・海水の大循環の原因であることを理解させる。  プレート活動 プレートテクトニクス誕生の歴史を紹介しながら、最新の地球像について理解を深める。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容が理解できているか</li> <li>・実験・実習の意義が理解できているか</li> <li>・実験・実習に意欲的に取り組んでいるか</li> <li>・実験・実習の結果をうまくまとめられるか</li> </ul>
1	私たちの日本列島	日本列島の歴史  日本列島の形成史とプレートの運動を関連づけて理解させる。近畿地方の地形・地質について理解する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容が理解できているか</li> <li>・実験・実習の意義が理解できているか</li> <li>・実験・実習に意欲的に取り組んでいるか</li> </ul>

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
理科	物理演習	3	2	リードα物理Ⅰ・Ⅱ

到達目標	自然現象や物質の性質を理解し科学的に考察する能力を育てる
到達目標に向けての具体的な取組	副教材の演習問題を生徒自信に順に皆の前で解かせて、また説明を中心を行わせ、最後に教員側からの質問を行い、解説して実際の入学試験問題に対応できる能力を育成する(適時物理Ⅰの内容も学習する)
【指導上の留意点】	問題を理解し解く力の養成をはかる

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	力学 落体の運動	重力加速度 放物運動	・演習問題を他の生徒の前で解かせる。その際、理解力・応用力を評価する。  ・定期テスト 以上により総合評価する	基礎的内容の理解があるか。  新しい事象にたいする推論ができるか。  教員側からの質問に対する応答が適切であるかどうか。
5	力のつり合い 運動の法則 仕事とエネルギー 運動量  円運動と単振動	運動量の保存 反発係数 円運動 慣性力と遠心力 単振動		
6	熱力学 電気と磁気 電界と電位	万有引力 分子運動 状態変化 電界 電位 コンデンサー		未知の問題に挑戦しようとする態度・意欲があるかどうか。
	電流	電流 直流回路		
7	電流と磁界	磁気力と磁界 電流がつくる磁界 電流が磁界から受ける力 ローレンツ力		
8	電磁誘導と電磁波	電磁誘導の法則 磁界中を運動する 導体の棒		
9		自己誘導と相互誘導 交流 電気振動と電磁波		
10	原子と原子核 粒子性・波動性	電子の電荷と質量 原子の中の電子 物質中の電子のエネルギー 固体中での電子の振る舞い		
11		光の粒子性 X線 粒子の波動性 原子モデル		
12				
1	原子核と素粒子	放射線と原子核 原子核とエネルギー 素粒子と宇宙		
2				
3				

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
理科	化学演習	3	2	高等学校化学I (啓林館)、センサー化学1+II(啓林館)

到達目標	自然界の事物・現象を化学的に探究する能力と態度の習得の完成を第一義的目標とする。その為に、基本的な概念や原理・法則を徹底的に応用する実力を身につけさせる。入試に対応する学力を身につけさせる。
到達目標に向けての具体的な取組み	問題集の問題を生徒に解かせながら、基本的ポイントや応用の解法等を説明する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7	☆物質の構成 ・物質の分類 ・原子の構造 ・化学結合 ・物質と化学反応式  ☆物質の変化 ・反応熱	・物質の分類、原子の構造、化学結合ならびに物質および化学反応式等の問題解法	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 「応用・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。  ◇評価の方法 ・定期考査 ・提出されたノートの内容 ・授業プリントの提出状況  等に基づく。	・授業にしっかり取り組んでいるか ・授業内容を理解しているか ・意欲を持って、解法の応用に心掛けているか。
9 10 11 12	・酸と塩基の反応 ・酸化還元反応 ・電池と電気分解  ☆無機物質 ・周期表 ・典型元素 ・遷移元素  ☆有機物質 ・有機化合物の特徴 ・炭化水素 ・含酸素脂肪族化合物 ・芳香族化合物	・化学反応の高校における二大柱としての酸塩基の中和反応ならびに酸化還元反応の解法。 ・物質各論としての無機物質の多様な世界を論じる問題の解法。 ・物質各論としての有機物質の多様な複雑な世界を論じる問題の解法。		
1	☆物質の状態 ・三態 ・溶液	・物質の集合状態としての三態ならびに混合状態としての溶液を論じる問題の解法。		

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
理科	生物演習	3 学年	2 単位	第一学習社 改訂生物 I と改訂生物 II、第一学習社 セミナー生物 I・II

到達目標 【学習指導要領】	生物や生物現象についての観察、実験、問題演習などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	2 年生および 3 年生の生物 I、II で十分指導できなかった分野、すなわち、生物の反応、生殖、遺伝と生態系の働きなどを講義する。さらに、2、3 年の生物 I と II で学習した分野の内容を、問題演習、実験、実習を行うことによって、問題解法の力をつけさせる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7 8	*問題演習と授業は平行して行う 遺伝子の連鎖と組換え 環境と植物の反応 問題演習 生命の単位 生殖と発生 遺伝と変異 実験 (4月)	遺伝子の連鎖・組換え・組換え価 植物の生活と環境 植物の反応と調節 細胞の構造と働き 細胞膜の透過性 細胞の増殖の分化 単細胞生物と多細胞生物 生殖 生物の生活環 動物の発生 遺伝 サクラの花の構造の観察 (ソメイヨシノとヤエザクラ)	「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 適宜質問をする。 期末考査により学習の定着度を評価する。 実験のレポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。	適宜質問による定着具合を確認する。 実物の生物を見ることによって、名前だけでなく、5 感 (見る、触る等) ことによって生物を理解させる。 日常の学習、問題演習による学習の定着度。
9 10 11	環境と植物の反応 実験 層別刈り取り法 問題演習 生体内の働き	植物は周囲の環境の影響を強く受ける。どんなしくみで環境の変化に対応するのかを学ぶ。 セイタカアワダチソウを用いて生産構造図を作成する 代謝と酵素 植物による物質の合成：光合成 呼吸	適宜質問をする。 個体群成長の資料学習 植物遷移の資料学習 実験中の態度 レポート 定期考査により学習の定着度を評価する。 実験のレポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。	測定が正確にできたか。 生産構造図を書けたか。 イネ科型と広葉型の違いの理解ができたか。 日常の学習、問題演習による学習の定着度。
1 2	実験	ヒトの反応速度 ヒトの二点域の測定 カタクチイワシの解剖 鶏の頭部の解剖 ゾウリムシの観察	実験のレポート、授業態度等により、評価する。	考察、スケッチ等、レポートの完成度。

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
理科	身近な科学	3	2	なし

到達目標	自然現象や物質の性質を実験・観察を行い、原理・法則を理解させ科学的に考察する能力を育てる
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	身の回りにおける物理的事象を実験や観察で検証できる能力を育成する 身の回りにおける地学的的事象を実験や観察で検証できる能力を育成する 身の回りにおける生物的事象を実験や観察で検証できる能力を育成する 身の回りにおける化学的事象を実験や観察で検証できる能力を育成する

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 8	磁気  波動	①磁石の性質 アルミと磁石の反応 うず電流による反応  ②磁界の観察  磁力線による磁界の表わし方 地球がつくる磁界  ①音波 オシロスコープによる音波の観察  ②光 スペクトルの観察と分光器の制作	観察の取り組み状況  実験の参加意欲  レポートの考察内容  班単位での活動  基礎的な理解度	観察しようとする態度・意欲が見られるか  実験における意欲・技術の程度  レポートの完成度  協調性・協力性・指導性が見られるか  基礎的内容が理解できているか
9 10 11 12	力学  バーコード  抽出  電気  太陽  刺激と行動	偏光と偏光板 レンズの働き  ①単振り子 重力加速度の測定 ②ばね振り子 バネ定数の測定  ① バーコードの構造 ② バーコードの読み取り  ポリグルタミン酸  ①電流 オームの法則 電池の内部抵抗 ②静電気 まさつ電気 電界の観察 電気力線による電界の表し方  ①日射量 太陽定数の測定  ① 反応の早さ ② 感覚の閾値		
1	熱	①温度 融点の測定 温度計の校正 ②比熱 金属比熱の測定		

# 教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
英語	リーディング	4	3	POLESTAR Reading Course (数研出版)	総合英語ユニット18 Voice <span style="float: right;">(山口書店) (第一学習社)</span>

到達目標	書き手の意向などを読み取る能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取り組み  【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読解力を向上させるため、徹底した語彙力を習得させる。その実現のため、小テストを実施する。</li> <li>・ 毎日の予習・復習を徹底させる。定期的なノート提出を実施し、学習状況を確認する。</li> <li>・ 副教材を利用して、文法・語法・英作文等の総合的な力を習得させる。</li> </ul>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4 5 6 7 8	POLESTAR Reading Course Lesson. 1～5  総合英語ユニット18 Lesson. 1～8  V o i c e Lesson 1～4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書で速読を重点とした読解力の習得。また語彙力向上のため、単語テストを行う。</li> <li>・ 副教材で実際の入試長文問題と文法問題を解き、実践力を養う。</li> <li>・ 副教材でリスニングを行い、センター試験に対応できるリスニング力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間考査と期末考査を実施する。</li> <li>・ 予習・復習を徹底させ、定期的にノートチェックを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査や小テストだけではなく、日頃の授業を通して到達目標に達しているかを見る。</li> </ul>
9 10 11 12	POLESTAR Reading Course L. 6～10  総合英語ユニット18 Lesson. 9～16  V o i c e Lesson 5～8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書で速読を重点とした読解力の習得。また語彙力向上のため、単語テストを行う。</li> <li>・ 副教材で実際の入試長文問題と文法問題を解き、実践力を養う。</li> <li>・ 副教材でリスニングを行い、センター試験に対応できるリスニング力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間考査と期末考査を実施する。</li> <li>・ 予習・復習を徹底させ、定期的にノートチェックを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査や小テストだけではなく、日頃の授業を通して到達目標に達しているかを見る。</li> </ul>
1 2 3	POLESTAR Reading Course L. 11～12  総合英語ユニット18 Lesson. 17～18  V o i c e Lesson 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書で速読を重点とした読解力の習得。また語彙力向上のため、単語テストを行う。</li> <li>・ 副教材で実際の入試長文問題と文法問題を解き、実践力を養う。</li> <li>・ 副教材でリスニングを行い、センター試験に対応できるリスニング力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年末考査を実施する。</li> <li>・ 予習・復習を徹底させ、定期的にノートチェックを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査や小テストだけではなく、日頃の授業を通して到達目標に達しているかを見る。</li> </ul>

# 教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
英語	ライティング	2	3	Element (2年次で終了)	Breakthrough Final Stage (問題集) ブレイクスルー総合英語 (参考書) スクランブル英語総合演習(小テスト用)

到達目標	積極的に英語に親しみ、目的に応じて英語を書く能力を一層伸ばすとともに、英語を理解しようとする積極的な態度を育てる。 文法・構文力・作文力の仕上げを目指す
到達目標に向けての具体的な取組  【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の予習・復習を徹底させる。</li> <li>・ 副教材を利用して、文法力・作文力を習得させる。</li> <li>・ 週1回、小テストを実施し、応用力を伸ばす。</li> </ul>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	時制・助動詞・受動態 準動詞	・ 副教材で文法・作文力の習得。	・ 中間考査と期末考査を実施する。	・ 定期考査や小テストだけではなく、日頃の授業を通して到達目標に達しているかを見る。
5	疑問詞・関係詞	・ 小テストでセンターテスト等に対応できる力を養成する。	・ 予習・復習を徹底させる。	
6 7 8	準動詞・比較 スクランブル小テスト (532～731番)		夏休み課題	
9	仮定法		・ 中間考査と期末考査を実施する。	・ 定期考査や小テストだけではなく、日頃の授業を通して到達目標に達しているかを見る。
10	接続詞	・ 予習・復習を徹底させる。 冬休み課題		
11	前置詞			
12	代名詞・否定・様々な構文 スクランブル小テスト (732～1094番)			
1  2 3	語法・語彙・イディオム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 副教材で文法・作文力の総仕上げ。</li> <li>・ リスニング練習問題でセンターテスト等に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年末考査を実施する。</li> <li>・ 予習・復習を徹底させる。</li> </ul>	・ 定期考査や小テストだけではなく、日頃の授業を通して到達目標に達しているかを見る。

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
英語	構文・読解 発展	3	2	UNITE総合英語 STAGE 4 スクランブル英語問題総合演習

到達目標	・書き手の意向などを読みとる能力・比較的長い英文を理解しようとする積極的な態度を育てる
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	・入試に対応できるための学力、リスニング力を養成する ・予習・復習を徹底させる ・英文を正しく読みとらせるのに必要な文法事項を習熟させる ・一定量の英文を限られた時間内で読む ・小テストの実施

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7 8	UNITE総合英語 Lesson 1 ~Lesson 6  スクランブル英語問題総合演習 第1章~第9章	読解 テーマ：エッセイ・社会・環境 健康  文法の知識の習熟 形容詞・助動詞・不定詞・動名詞・分 詞・仮定法  語法の習熟 時制・受動態・助動詞・不定詞・ 動名詞・分詞・仮定法・比較・疑問	授業観察  提出物  小テスト  定期考査	予習の習慣が確立できている  文法事項の知識が定着して、使い こなせる  英文の内容を早く正確に読みとる ことができる
9 10 11 12	UNITE総合英語 Lesson 7 ~Lesson 14  スクランブル英語問題総合演習 第10章~第16章	読解 テーマ：言語・文化・生物・教育 科学・社会生活  文法の知識の習熟 関係代名詞・関係副詞・強調構文・同 格・自動詞・他動詞・名詞  語法の習熟 否定・代名詞・関係代名詞・関係副詞 ・複合関係詞・接続詞・動詞		
1 2 3	UNITE総合英語 Lesson 15	読解 テーマ：国際社会   イディオムの習熟		

# 音楽Ⅲ

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
音楽	音楽Ⅲ	2	3	J o y o f m u s i c	なし

到達目標	音楽Ⅰ、音楽Ⅱを通してつけた力を確認しながら、「さらによいものを目指す」という強い向上心を育む。同時に音楽を奏でる上で必要となる演奏技術をさらに高める。また授業内での総合的芸術作品の鑑賞を通して、芸術作品を鑑賞する上での着眼点を増やす。
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	少人数であっても質にこだわりをもち、音楽を奏でる感動を体験する。またグループ単位での音楽活動を自主的に進め、演奏能力・演奏における応用能力・発想力を高める。声楽（発声方法）・器楽の演奏能力の向上に伴う表現力を引き出す。日本の伝統文化のひとつである箏・三絃・尺八について、歴史的背景を踏まえた上での現在の在り方を学び、箏の演奏能力の向上にも努める。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	◇基本的な発声練習	・発声方法をさらに深く学習することによって、美しい発声をもって自分の感情を表現するだけの技術を身につける。 ・自分のパートを決める。	・うたの実技試験	・真面目に取り組んでいるか。
5月 6月 7月 8月	◇合唱	発声について繰り返し学習をすることで、方法にこだわらなくても自然に美しい発声ができるようにまで訓練をする。 原語で歌う練習をし、同時にその国に根ざしてきた文化に触れる。 曲の内容にふさわしい発声や表現方法の工夫を自分で創造する。	・授業での練習態度 ・暗譜テスト ・感想文提出	・仲間と協力して真面目に取り組んでいるか。 ・誠意をもって授業に取り組んできた様子がうかがえるか（感想文）。
9月 10月	◇器楽 基礎練習、曲練習ともにプリント教材を使用。	リコーダー以外の器楽アンサンブルを行う。 表現力をつけ、表現するために効果的な技術を身につける。	・授業での練習態度 ・実技試験	・授業を疎かにしていないか。 ・向上心をもって練習しているか。
11月 12月	◇グループ活動 (アンサンブル・創作) 3人以上、6人以内のグループをつくり、与えられた課題曲と自分たちで創作した自由曲を練習し、発表する。	課題曲は、器楽から1曲・声楽から1曲を指定された中から、どちらか1曲を選択する。グループごとに表現方法や技術をさらに深く学び、それを演奏に活かす。グループごとにオリジナル曲を創作し、それを発表する。ただし、歌詞・旋律から創作したものでなくても、既存の曲にグループなりのアレンジを加えることも創作とみなすが、常に「良いもの」にする意識をもち、完璧に近い演奏ができるよう努力することの難しさと、そのようにして仕上げたものを発表する楽しさを知る。	・グループ発表 ・発表鑑賞レポート提出	・授業を疎かにしていないか。 ・仲間と協力しながら自主的に行動しているか。 ・相手のことを思いやりながら音楽をしているか。
1月	◇日本の伝統芸能について学ぶ	昨年度までに学んだことをふまえ、さらに現代における伝統的邦楽器の有り様について知る。また演奏についても学習を重ね、最終的には「六段の調」を演奏できるようになる。	・学習プリント提出 ・実技試験	・意欲的に授業に取り組んでいるか。 ・ものを大切に扱っているか（楽器の扱いを通して）。
2月 3月	◇鑑賞 音楽・舞踏・映像などを含めた総合的な芸術作品の鑑賞を行う。	映像や舞踏と音楽がどのように関わることができるのか、またどのような効果生まれるのかを学び、鑑賞能力を高める。	・鑑賞レポート提出	・意欲的に授業に取り組んでいるか。 ・意欲を持って鑑賞に取り組み、教養を増やそうとしているか。

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年	単位数	教材名等
音楽	音楽総合演習	3	2	なし

到達目標	基礎的な実技能力を身につけ、音楽を愛好する心情とともに感性を高め、自主的に活動できる主体性を育む。
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	1学期には発声・ソルフェージュ・楽典の基礎を全体で学びつつ、個に応じた器楽についても実技能力を向上させる。2学期から3学期にかけて「演奏会を実施する」という設定で、人前で発表することを前提とした音楽活動を行う。音楽のことだけに拘るのではなく「自分で考えて行動する」という、生きていく上で必要となる主体性を重視し、指導する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	発声の基礎 コール・ユウ・ブンゲン 楽典 (音階と調)	腹式呼吸と発声方法 コール・ユウ・ブンゲンを利用して音程感を身につける 音階と調についてのプリント教材による学習	取り組み状況 小テスト	積極的に取り組んでいるか 授業内容を理解しているか
5月	ソルフェージュ 楽典 (音価とリズム)	楽譜をよむ練習をする 歌いながらリズムを叩く練習をする 音価とリズムについてのプリント教材による学習	取り組み状況 小テスト	積極的に取り組んでいるか 授業内容を理解しているか
6月	ハーモニー・エチュード 楽典 (音程と和音)	パートに分かれて声によるハーモニーの練習をする 音程と和音についてのプリント教材による学習	取り組み状況 小テスト	積極的に取り組んでいるか 授業内容を理解しているか
7月 8月	器楽 アンサンブル	リコーダー・ギター・ピアノ等の鍵盤楽器から1つ選択し、基礎的な演奏法を身につけ、グループを作りアンサンブルをする。 実技テストはグループ形式によるアンサンブルの発表を基本とする。	取り組み状況 実技テスト	積極的に取り組んでいるか 基礎的な演奏法を身につけているか アンサンブルについて理解しているか
9月	歌唱 (合唱) For the beauty of the earth	J. ラター作曲の For the beauty of the earth を練習し、合唱する。実技テストは各パートひとりずつの重唱形式で行う。 言葉の発音や発声方法、転調に関わる表現方法を重視する。	実技テスト	積極的に取り組んでいるか 授業内容を理解しているか
10月 11月 12月 1月	演奏会を創る	演奏会がどのようにしてつくられているのかを知り、その計画・運営を通して音楽だけにとどまらない企画能力を培う。 個に応じた課題を自らが発見し、目標を設定した上でそれぞれの実技・創作能力を向上させる。 聴き手の立場から、観客に楽しんでもらうにはどうすればよいのか考え、工夫する能力と自主性を養う。	取り組み状況 提出物	積極的に取り組んでいるか 他者と協力しているか 自らの課題を見つけ、取り組んでいるか
2月 3月	鑑賞	日本の伝統芸能に始まり、ゴスペル、フラメンコなど世界の音楽に触れる。 またクラシックと呼ばれるジャンルにおいてはオペラを鑑賞し、楽曲を聴いてイメージを膨らます (「お話」を創造する) ことも試みる。 武満徹が音楽・音響を担当した小林正樹監督作品映画「怪談」を鑑賞し、シンセサイザーのない時代の工夫について知る。	取り組み状況 提出物	積極的に取り組んでいるか

## 美術Ⅲ (指導と評価の年間計画)

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	美術Ⅲ	2	3	美術Ⅲ (光村図書)	なし

到達目標	美術の創造活動を通して、表現と鑑賞の能力を一層高めるとともに、美術についての理解を深め、美術文化を尊重する態度を育てる。(学習指導要領)
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	美術Ⅰ・Ⅱの目標を発展させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・より専門的な技術、用方を用い、高度な作品を模索させ、描く楽しさ作る喜びを感じる事ができる。</li> <li>・三年間の集大成として作品の主題についてテーマを自身で考えさせ、自主的な制作を行う。</li> </ul>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	◇ 絵画・素描 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 静物デッサン</li> <li>● 人物クロッキー</li> <li>● 風景画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目に見える身近な世界をよく観察し、鉛筆やコンテの線で表現する力を身につける</li> <li>・構成力を含め、画面への配置のバランスを身につける。</li> <li>・人体のつくりを理解し線の強弱で表現する</li> <li>・遠近法や一点透視図法を使って空間を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での制作態度</li> <li>・クロッキー</li> <li>・鉛筆デッサン</li> <li>・素描</li> <li>・自己評価カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象物をよく観察し細かいディテールまで表現できているか。</li> </ul>
5月 6月 7月	◇大型パネル作品の制作 目にみえる世界を描こう (具象)  ◇合評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大型パネルの制作、下地剤の塗装</li> <li>・テーマは具象絵画(静物画・人物画・風景画)の中から主題となるモチーフを選択する。</li> <li>・テキストやマチュール、メディウムの使い方など、技法の説明をする。</li> <li>・スケールを使ってモチーフの構図を決め、エスキースする。</li> <li>・ヘラやパレットナイフなど筆以外の道具を使う</li> <li>・モチーフを良く観察し感じた色をのせていく。</li> <li>・光の方向を意識し細部のディテールも描く。</li> <li>・お互いの作品を鑑賞しあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での制作態度</li> <li>・作品</li> <li>・自己評価カード</li> <li>・鑑賞カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風景や物や人物は視点の方向や高さで変る為、効果的な構図を工夫しているか。</li> <li>・感じ取った印象を色に置き換える事ができるか。</li> <li>・描く楽しさを感じ取れるか</li> <li>・表面のテキストの工夫し効果的な画肌に仕上がっているか。</li> <li>・自分と異なる表現を理解しようとしているか</li> </ul>
8月	◇本を読んで描きたい題材を探そう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん本を読み様々な文化や時代に触れ、情景を想像し感想文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情景描写を感じ取れているか</li> </ul>
9月 10月 11月 12月	◇ 絵本を作ろう  ◇ 朗読会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材にあった画材を考慮し、資料を集める。</li> <li>・限られたページ数のどの場面を描くかシーンごとに構想を練り、エスキースを描く。</li> <li>・全体的に色構成のバランスを考えながら、彩色していく。</li> <li>・自分のお気に入りのページを朗読し紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での制作態度</li> <li>・作品</li> <li>・自己評価カード</li> <li>・発表</li> <li>・鑑賞カード</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想像力を働かせた場面展開ができているか。</li> <li>・他者に理解できるような心遣いができているか</li> <li>・根気強く最後まで良い作品に仕上げようと工夫しているか。</li> <li>・他の人の作品から学ぼうとしているか</li> </ul>
1月 2月	◇未来の私にビデオメッセージの入ったオリジナルDVD-Rを作ろう (映像/デザイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生活を振り返り、思い出の写真や、大切な出来事の記憶のイメージを使ってDVD-Rのジャケットをデザインし、ビデオや写真を通しての視覚伝達効果や表現についての理解を深める。</li> <li>・参考作品の鑑賞。制作手順の説明。未来の私へ一分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチ・課題カード(授業の記録) 授業態度(取り組み状況) ・作品、 ・自己/相</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発想や構想の能力/独自性</li> <li>・意図を理解し工夫したデザイン構成か</li> <li>・映像による伝達効果や造形としての意義の理解</li> </ul>

3月		<p>間メッセージを文章で書く。(四百字程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デザインのエスキース (今年度の年号、共感を伴うイメージ) 制作 (モノクローム、ペンによる線描、点描、コラージュ可) 1分間メッセビデオ撮影</li> <li>鑑賞 (自己評価、鑑賞カードの記入)、合評で自分の作品について苦労点やポイントを発表し相互批評しデザインを投票で選出</li> </ul>	<p>互評価 (鑑賞カード) ・メッセージ文章、発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心/意欲/態度</li> <li>・記録カードの記入内容、進行具合 創造的な技術/能力</li> <li>・作品の完成度</li> </ul>
----	--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 生活美術（指導と評価の年間計画）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	生活美術	2	3年	なし	なし

到達目標	生涯にわたって芸術を愛好する心情を養う為、生活の身の回りに溢れている美術やデザイン作品を考察し、自ら制作する。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工業製品や視覚デザインの制作を通し、美しさ、使用目的、機能などのコンセプトについてバランスを考え、身の回りの工業製品や視覚デザインを深く考える。</li> <li>2. 素材の多様や作品構成の工夫をし、形や構図、アイデア、表現方法の重要性を学び、計画や手順を考えて制作する。</li> <li>3. 創造する事の喜びや、構成の工夫の面白さ、完成する事の喜びを深く感じることができる。</li> </ol>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月 5月 6月 7月	学内に設置するためのデザインパネル制作 (平面/ビジュアルデザイン)	<p>普段の生活を通して訴えたいメッセージを視覚化するという観点で、テーマを設定しデザインし表現する。</p> <p>参考作品の鑑賞（課題内容、制作手順、技法、画材の説明（プリント配布））</p> <p>テーマやコンセプトを文章で書く。（構想）</p> <p>キャッチコピー決めてテーマにあわせたレタリングをする</p> <p>資料を集めアイデアスケッチを描く</p> <p>パネルへのトレース。鉛筆や絵具を使得の着色。</p> <p>完成 作品の鑑賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチ</li> <li>・コンセプト</li> <li>・課題カード</li> <li>・授業中の取り組み状況</li> <li>・習作作品</li> <li>・自己・相互評価</li> <li>・感想・意見（鑑賞カード）</li> <li>・作品</li> </ul>	<p>発想や構想の能力/独自性、構図の工夫</p> <p>関心/意欲/態度</p> <p>記録カードの記入内容、進行具合</p> <p>創造的な技術/能力</p> <p>立体感や影の表現、色の濃淡などの工夫</p> <p>鑑賞、文章表現の能力</p>
9月 10月	シルバーアクセサリーを制作しよう (工芸/立体デザイン)	<p>銀の歴史はとても古く、様々な文明の中で装飾品や貨幣としてしようされている銀を素材に現代的なアクセサリーを制作する。</p> <p>参考作品（指輪/キーホルダー/ストラップ…etc）の鑑賞。</p> <p>材料技法、制作手順の説明（プリント配布）</p> <p>（構想）アイデアスケッチの制作。</p> <p>練習課題（石粉粘土での制作・形成→乾燥→整形）</p> <p>制作（シルバークレイでの制作・形成→乾燥→整形→焼成→冷却→研磨）</p> <p>完成後鑑賞（自己評価、鑑賞カードの記入）</p>	<p>アイデアスケッチ</p> <p>課題カード（授業の記録）</p> <p>授業態度（取り組み状況）</p> <p>自己・相互評価（鑑賞カード）</p> <p>作品</p>	<p>立体的に空間を捉えたデザインを工夫</p> <p>関心/意欲/態度</p> <p>記録カードの記入内容、進行具合</p> <p>創造的な技術/能力</p> <p>計画的な手順、技法の理解作品の完成度</p> <p>鑑賞、文章表現の能力</p>
11月 12月	多色木版画で年賀状をつくらう	<p>ネットが発達した現代において実際に手にとってみることができるハガキに柄やレタリングをデザインし素材感のある年賀状を制作する。</p> <p>課題、技法（エンボス加工/版画）、制作手順の説明</p> <p>アイデアスケッチの制作（エンボス加工/干支か年号を使用。）</p> <p>下書きを写しエンボス/木版用の木板を彫刻刀で彫る→プレス機にかける。完成後鑑賞（自己評価、鑑賞カードの記入）。</p>	<p>アイデアスケッチ</p> <p>課題カード（授業の記録）</p> <p>授業態度（取り組み状況）</p> <p>自己・相互評価（鑑賞カード）</p> <p>作品</p>	<p>干支・文字の表現の工夫</p> <p>関心/意欲/態度</p> <p>記録カードの記入内容、進行具合</p> <p>創造的な技術/能力</p> <p>作品の完成度</p> <p>鑑賞、文章表現の能力</p>
1月 2月 3月	未来の私にビデオメッセージの入ったオリジナルDVD-Rを作らう	<p>高校生活を振り返り、思い出の写真や、大切な出来事の記憶のイメージを使ってDVD-Rのジャケットをデザインし、ビデオや写真を通しての視覚伝達効果や表現についての理解を深める。</p> <p>参考作品の鑑賞。制作手順の説明。未来の私へ1分間メッセージを文章で書く。（四百字程度）デザインのエスキース（今年度の年号、共感を伴うイメージ）制作（モノクローム、ペンによる線描、点描、カラージュ可）1分間メッセージビデオ撮影</p> <p>鑑賞（自己評価、鑑賞カードの記入）、合評で自分の作品について苦労点やポイントを発表し相互批評しデザインを投票で選出。</p>	<p>アイデアスケッチ</p> <p>課題カード（授業の記録）</p> <p>授業態度（取り組み状況）</p> <p>作品、自己・相互評価（鑑賞カード）</p> <p>メッセージ文章、発言</p>	<p>発想や構想の能力/独自性</p> <p>意図を理解し工夫したデザイン構成か</p> <p>映像による伝達効果や造形としての意義の理解</p> <p>関心/意欲/態度</p> <p>記録カードの記入内容、進行具合</p> <p>創造的な技術/能力</p> <p>作品の完成度</p>

# 書道Ⅲ

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
芸術	書道Ⅲ	2	3	書道Ⅲ（教育出版）	漢字古典資料、仮名古筆法帖

到達目標	「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の作品制作を通して、さまざまな書体や書風を用い、感興や意図に基づく表現の構想と工夫ができる能力を養う。
目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典、古筆の臨書を通して、表現と鑑賞の能力を養う。</li> <li>・制作にあたっての意図、過程、自己評価等を確認する。</li> <li>・制作の参考とするため、さまざまな古典法帖や現代の書作品を紹介し、鑑賞も行えるようにする。</li> </ul>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	漢字の書		・作品	・臨書の意義を理解しているか。
5	・臨書①	・古典の臨書（半紙、半切、全紙）	・選択した古典法帖に関するレポート	・各自選択した古典に対する理解が、実技理論両面から深められたか。
6	・臨書②	・漢字創作（七言二句、半切）	・批評会プレゼンテーション	・古典の特徴を捉え、章法に留意した臨書作品となっているか。
7	・臨書③	字書の活用、用具・用材の確認、		・古典を意識し、章法に留意した創作作品となっているか。
	・創作	選別、批評会、表具→文化祭展示		
8	仮名の書	・古筆の臨書（半懐紙）	・作品	・古筆の特徴を捉え、章法に留意した臨書作品になっているか。
9	・臨書	・仮名創作（半懐紙、半切）		・構成（散らし書き）の工夫が見られるか。
10	・創作①	題材（和歌）の選定、用具・用材の確認、	・批評文	・連綿、変体仮名が無理なく使えたか。
11	・創作②	選別、批評会、表具→展示		
	漢字仮名交じりの書	・創作（半切、全紙1／2）		・構成を工夫し、意図に沿った表現で書作できているか。
12	・創作①	題材（自由課題・校歌）の選定、用具・用材の確認、	・作品	
1	・創作②	選別、批評会	・批評会プレゼンテーション	

## 実用書道

教科	科目	単位数	指導学年	教材名	副教材名等
書道	実用書道	2単位	第3学年		ペン字テキスト実務編

<b>到達目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペン字と細字（小筆）によるさまざまな実用書の書き方を学び、書写能力を高め、日常に生かせるようにする。</li> <li>・情報化社会の中にあつて、日常生活に生かされる手書き体験を通し、感性を豊かにさせる契機とする。</li> </ul>
<b>到達目標に向けての具体的な取組</b> 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字は、楷書と行書を正確に書き分けられるようにするため、その原則を理解させ、繰り返し練習させる。</li> <li>・実用書式を学ぶ中で、漢字と仮名の調和や全体構成にも配慮させる。</li> </ul>

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・ペン字の学習                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮名の練習（平仮名、片仮名）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業予定、用具の特性の理解</li> <li>・基本練習を通して、ペンの使い方に慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（意欲・興味・関心）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手本に忠実に書こうという姿勢で取り組んでいるか。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楷書，行書の基本点画</li> <li>・楷書，行書の実用文字</li> <li>・縦書き，横書きの練習</li> <li>・暮らしの中の書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な書式について理解した上で、注意点を踏まえながら練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物（テキスト）の点検・添削（毎回提出）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の正しい書き方が手本を見てわかるようになってきたか。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氏名、封筒（宛名等）、葉書（表・裏）、手紙文、履歴書等</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・各書式の基本的なことが理解できているか。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭展示作品の制作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を繰り返し書き込むことで、書式に慣れ、線質についても考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習量（意欲）</li> <li>・作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体のまとめ方や運筆のリズムにも注意して書けるようになってきたか。</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペン字テキストの仕上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習を生かして最後まで丁寧に仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の書写能力が高まったか。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細字（小筆）の学習</li> <li>・漢字仮名交じり文</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペン字の学習を生かすよう心がける。</li> <li>・小筆の使い方に慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（意欲・興味・関心）</li> <li>・作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペン字で学んだことが細字にも生かされているか。</li> <li>・1，2年次に書道を選択していなかった生徒も意欲的に毛筆に取り組んでいるか。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慶弔句</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熨斗紙、熨斗袋の書式、用途について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（意欲・興味・関心）</li> <li>・作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小筆の使い方に慣れたか。</li> <li>・効果的な墨の使い方ができているか。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年賀状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小筆の用筆法について理解を深める</li> <li>・何種類かの作例を示し、解説する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（意欲・興味・関心）</li> <li>・作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常に生かそうとする態度が見られるか。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芳名録</li> <li>・賞状、感謝状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氏名を正確な行書で書けるようになったか、確認する。</li> <li>・芳名録の書き方を説明する。</li> <li>・内容も各自で考えた賞状または感謝状を、賞状用紙に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（意欲・興味・関心）</li> <li>・作品（実技テスト）</li> <li>・作品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい執筆法で行書が書けるようになったか。</li> <li>・日常に生かそうとする態度が見られるか。</li> <li>・賞状、感謝状としての体裁が整っているか。</li> <li>・楷書の筆使いができていないか。</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講の感想を手紙形式で書く。（ペン字）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間に渡って学んだことを生かして、ペン字作品として仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品（文章を含め、総合的に評価する）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の書写能力が高まったか。</li> <li>・漢字と仮名の調和に気を配りながら書けたか。</li> </ul>

# 指導と評価の年間計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
家庭	フードデザイン	2	第3学年	フードデザイン新訂版	新カラーガイド食品成分表

到達目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事を総合的に計画・実践できる能力と態度を、実践的・体験的に習得できるようにする。</li> <li>各項目について有機的な関連を図り、総合的に展開する。</li> </ul>

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	第1章 1 食事の意義と役割 2 食生活の現状とこれからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の役割について理解する</li> <li>現代食生活の問題点を理解し、心身ともに健康でゆたかな食生活を営むための食事のあり方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業内容への関心・意欲」「基礎的知識の理解」「科学的・論理的な思考、考察能力」といった観点に基づき、下記の方法により総合的に評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食環境の変化と自らの食生活を関連付けて考え、健康で文化的な食生活を実践しようとしているか。</li> </ul>
5	第2章 1 からだのしくみと食べ物 2 栄養素の役割 3 栄養素の種類と働き 4 消化と吸収	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の機能と代謝について理解する。</li> <li>摂取した食物が消化吸収され、排泄されるまでの仕組みの概要を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>授業プリントの提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的知識が身に付いているか。</li> <li>健康の保持を図るという観点から栄養素について理解し、自らの食生活を省みようとしているか</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習 1</li> <li>調理実習 2</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に、また食品衛生と安全に配慮しながら能率的に取り組んでいるか。</li> </ul>
7	第4章 1 調理の目的 2 食べ物のおいしさ 3 調理器具と調理操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の特徴と性質について、実習を通して実践的に理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習記録提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の生産、加工などについて関心を持ち、自らの生活に関連付けることができるか。</li> </ul>
8	第3章 1 食品の特徴と性質 2 食品の生産と流通	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の生産と流通について理解する。</li> <li>調理実験 1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実験レポートの提出</li> <li>1 学期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品の特徴や調理上の性質の知識を、調理をする際に役立てようとしているか。</li> <li>基礎的知識が身に付いているか。</li> </ul>
9				
10	第2章 5 食事摂取基準と食事計画 6 ライフステージと栄養計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>「日本人の食事摂取基準」について理解し、献立作成に活用できるようにする。</li> <li>各ライフステージにおける栄養の特徴、食生活上の留意事項、調理法の工夫などについて理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習記録提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事摂取基準に則した献立を工夫しているか。</li> </ul>
11	第5章 1 料理様式と献立 2 テーブルコーディネート	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理実習 3</li> <li>調理実習 4</li> <li>調理実習 5</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>献立・調理計画書提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種々の料理様式の特徴や献立構成、食卓作法等、食文化にも関心を持ち実習に取り組んでいるか。</li> </ul>
12	第6章 1 食品の選択と調理	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事のテーマに応じた献立作成、食品選択と調理、テーブルコーディネートとサービス方法を計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2 学期末考査</li> <li>実習記録提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な食事テーマを設定し、栄養、嗜好、季節感、経済、調理時間などに配慮して献立を作成しているか。</li> <li>基礎的知識が身に付いているか。</li> </ul>
1	第6章 2 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマ設定による調理実習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事テーマにふさわしく、調理操作、盛り付け、食卓装飾等を工夫しているか。また実習内容を客観的に省みているか。</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>献立計画から食材準備、調理、配膳、食事、後片付けまでを実践するレポート課題。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>計画に基づき、衛生と安全に配慮した食品の選択、取り扱い、調理操作を総合的に実践できる能力が身に付いているか。</li> </ul>
3				

# 体育（3年男子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健体育	体育	1	3年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	チーム対抗ゲーム等を実施する中から、仲間との協力や責任の態度を育て、技能の修得を目指す。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	体ほぐし運動	ストレッチング中心 新体力テスト実施 各記録の結果	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。	
5	テニス			
6		○テニス 得点を決めることを目指すのではなく、ラリーが続くことを目標に活動させる。	ゲーム進行中での活躍と協力 スキルテスト フォアハンド・バックハンド・ボレー等のテスト	関心・意欲・態度・理解 フォアハンド・バックハンド・ボレー等の技術
7	水泳	○水泳 クロール・平泳ぎ・背泳ぎ バタフライ	背泳ぎ・バタフライ 4種目メドレー の記録測定	記録・泳法
8				
9	バドミントン	○ゲーム中心	スキルテスト フォアハンド・バックハンド・ボレー等のテスト ダブルスのルールの理解	関心・意欲・態度・理解 フォアハンド・バックハンド・ボレー等の技術
10				
11				
12				
1	バドミントン	○ゲーム中心	ゲーム進行中での活躍と協力	関心・意欲・態度・理解
2				
3				

## 体育（3年男子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健体育	体育	1	3年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組  【指導上の留意点】	チーム対抗ゲーム等を実施する中から、仲間との協力や責任の態度を育て、技能の修得を目指す。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4 5 6 7 8	体ほぐし運動  バスケットボール  水泳	ストレッチング中心 新体力テスト実施 各記録の結果 ○基本練習  ○ゲーム中心  ○水泳 クロール、平泳ぎ・背泳 泳ぎ込み中心	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実技テスト  記録測定	関心・意欲・態度・理解 ゲームでの動き・役割  記録・泳法
9 10 11 12	テニス	○テニス 各種のストロークを習得し ダブルスのゲームを行う	スキルテスト ダブルスのルールを理解	関心・意欲・態度・理解 フォアハンド・バックハンド・ボレー等の技術
1 2 3	サッカー	ゲーム中心	出席状況とゲーム理解度	関心・意欲・態度・理解 運動の技能

## 体育（3年女子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健体育	体育	1	3年	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組  【指導上の留意点】	チーム対抗ゲーム等を実施する中から、仲間との協力や責任の態度を育て、技能の修得を目指す。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度（単元・章・項）	指導内容（項目／活動）	評価方法等	評価のポイント
4	体ほぐし運動	ストレッチング中心 新体力テスト実施 各記録の結果	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。	
5	ラグビー			
6		○ラグビー ランパス・ミニゲーム	パス・ランパス ゲーム中の動き、指示、取り組む姿勢	関心・意欲・態度・理解 パス・連携等の技術
7	水泳	○水泳 クロール、平泳ぎ・背泳 泳ぎ込み中心	記録測定	記録・泳法
8				
9	ラグビー	○ラグビー ゲーム中心	ゲーム中の動き、指示、取り組む姿勢	
10	バドミントン	○バドミントン 各種のストロークを習得し ダブルスのゲームを行う	スキルテスト ダブルスのルールの理解	関心・意欲・態度・理解 フォアハンド・バックハンド・ボレー等の技術
11				
12				
1	バドミントン	ゲーム中心	出席状況とゲーム理解度	関心・意欲・態度・理解 運動の技能
2				
3				

## 体育（3年女子）

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材名等
保健体育	体育	1	3年女子	現代保健体育（大修館）	

到達目標	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組  【指導上の留意点】	チーム対抗ゲーム等を実施する中から、仲間との協力や責任の態度を育て、技能の修得を目指す。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。

月	速度(単元・章・項)	指導内容(項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	体ほぐし運動	ストレッチング中心 新体力テスト実施 各記録の結果	「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。	関心・意欲・態度・理解 ゲームでの動き・役割
5	バレーボール	○基本練習	実技テスト	
6		○ゲーム中心		
7	水泳	○水泳 クロール、平泳ぎ・背泳ぎ 泳ぎ込み中心	記録測定	
8				
9	テニス	○テニス 各種のストロークを習得し ダブルスのゲームを行う	スキルテスト ダブルスのルール理解	関心・意欲・態度・理解 フォアハンド・バックハンド・ボレー等の技術
10				
11				
12				
1	テニス	ゲーム中心	出席状況とゲーム理解度	関心・意欲・態度・理解 運動の技能
2				
3				

## 「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
保健体育	体育演習	3年	1	

到達目標 ※	心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に、健康の保健増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	様々な競技を経験する中から、仲間との協力や責任の態度を育て、技能の習得を目指す。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。レポートを課し、運動の理論と実践の一体化を図るとともに運動の文化的な意義を理解させる。

月	速度 (単元)	指導内容 (項目/活動)	評価方法等	評価のポイント
4	ゴルフ	素振り・打ち込み	飛距離測定 コーススコア	関心・意欲・態度・記録 技術
5			記録測定	
6	インディアカ	パス・サーブ練習 実践練習	パスの習熟度・フォーム サーブテスト	関心・意欲・態度・理解 技術  記録
7				
8				
9	アルティメット	フォーム 投げ方・捕球 ゲームのルール理解	飛距離 正確性のテスト 勝敗	関心・意欲・態度・理解 技術
10				
11	キンボール	その種目の特性を理解 その種目の技術習得	ゲーム理解度 勝敗	関心・意欲・態度・理解 技術
12				
1	生涯スポーツ	その種目の特性を理解 その種目の技術習得	実技テスト	関心・意欲・態度・理解 技術
2				

※学習指導要領に示された教科の目標をふまえて設定すること。

別紙様式3-①の(1)に記した「学校設定科目」について、科目ごとに作成すること。

## 教科・科目別年間指導計画

教科	科目	単位数	指導学年	教科書名	副教材
情報	情報 B	2	3年	数研出版「情報 B」	

到達目標	昨年学習したことを基礎に、より具体的、詳細に情報機器への発展性や、情報の扱い方、すぐに使えるスキルを身につける。IT パスポート試験に合格することを目標とする。
到達目標に向けての具体的な取り組み 【指導上の留意点】	理型的要素が多い科目ということもあり、一般社会に通用するコンピュータ資格として、IT パスポート試験に出題される内容を説明し、模擬テスト形式の授業も取り入れ、応用的な科目として位置づけ、自分で発展に学ぶ能力を養う。

月	速度 (単元・章・項)	指導内容 (項目/活動)	評価方法	評価のポイント
4 5 6 7	テクノロジー系  マネジメント系  1 学期期末試験	基礎的な用語・概念などの知識や、論理的な思考力を養う。また、身近なシステムの安全な利用に関する基礎的な知識も身につける。  システム開発やプロジェクトマネジメントに関する基礎的な用語・概念などの知識を身につける。	授業に対する意欲・関心・態度  それぞれの単元や語句に対する知識・理解  小テスト  定期考査	意欲を持って取り組んでいるか。  予習・復習がきちんと出来ているか。  問題集をしっかりとやっているかなど。
9 10 11 12	ストラテジ系  (IT パスポート試験)  2 学期期末試験	情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的な用語・概念などの知識を身につける。	IT パスポート試験の結果	
1 2 3	プログラミング	簡単なプログラムを自分で作ることで、その動きや流れの基礎を学ぶ。	課題	出された課題を理解した上で完成出来ているか。